
ああ、我が妹よ。

雨と傘

注意事項

「」のPDFファイルは、「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ああ、我が妹よ。

【ZZコード】

ZZ239Z

【作者名】

雨と傘

【あらすじ】

息抜き作品なので、更新はたぶん不定期。私には妹がいる大変可愛らしく小鳥や妖精と可愛がられた私とは全く違う妹が。それは別にいい。周りになんと言われようと、私は私の道を行くだけだ。だけど、そんな私にも唯一許せない事がある。それは、計算高く気高く傲慢で我が家まで自分が他人からどう見られているのかをよく知っている妹に利用される事だ！（てめえ、後で覚えてろよ）（あら、何の事ですか？）（「のやろ…」）こつそり足を踏んだり、こつそり手の甲をつねる、どこかずれている姉と小悪魔な妹の攻防戦。

「」そり足を踏みつける

私と妹は似ていない。

同じなのは、母様から引き継いだエメラルド色の目だけだ。

あの子の髪は美しい蜜色。

私の髪はくすんだ灰色。

あの子の顔は可愛くて守つてあげられるような顔。笑うと妖精のように美しい。

私の顔は無表情。可愛げのない顔。

あの子はスタイルがとてもいい。胸の大きさは、あの子の方が大きい。腰のぐびれだって、折れてしまいそうなほど細い。私は、あの子より劣っている。

先に弁解しておくが、これは周りの声を反映した結果であって、私自身の意見ではない。

別に周りの評価はどうでもいいのだ。

どう思われようが、私は私の道を行くだけ。変人と言われようと知つたこつちやがない。

だけど、そんな私にも唯一許せない事がある。

「今度の夜会は、あのネリエ伯爵の主催でしょう…？私、怖いのです。」

目に涙を浮かべ、小刻みに震える姿は怯える小動物のようだ。

「お願いです、お姉さまー一緒に、ついてきていただけませんか？」

おいおい、My sister、疑問形なのに命令形に聞こえるのは何故かしらん？

涙目で切々と訴える姿には心打たれるものがあるが……お前、分かつてやつてるだろ。お父様なんてお前の後ろから私に殺氣送つてきてるぞ。断つたら分かつてんだろうな……的な死線、じゃなかつた視線送つてきているからな。断つたら後が怖い。

「……ええ、可愛い私のリリスのお願いだもの。私も行くわ。
「う、ありがとうーお姉さまー。」

ぎゅっと抱きついてきた我が妹は羽のように軽い。だけど、軽いからといって一々抱きついてこないでほしい。それに腕が、腕が首に入ってるっ！

「お姉さま、大好きー！」

そうして、ニヤリと笑った。あはは、美少女は悪女の笑みを浮かべても美しい。むしろギャップで魅力倍増？お父様、涙ぐむのはリストの顔を見てからにして下さい。もちろん、リリスは丁度よくお父様に背中を向けていて、お父様に顔は見えない。

私は一瞬と溜息をついた。

我が妹は計算高く気高く傲慢で我がままで自分が他人からどう見られているのかをよく知っている。

私が唯一許せないのは、そんな妹に利用される事である。

(てめえ、後で覚えてるよ。)
(あら、何のことですか?)

アイコントラクトで交わされた会話を、父は知らない。

「JR、そり足を踏みつける（後書き）

どこか抜けている姉と小悪魔な妹の静かなる姉妹喧嘩。
軽いノリで進めたいと思つてます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9239z/>

ああ、我が妹よ。

2011年12月28日22時52分発行